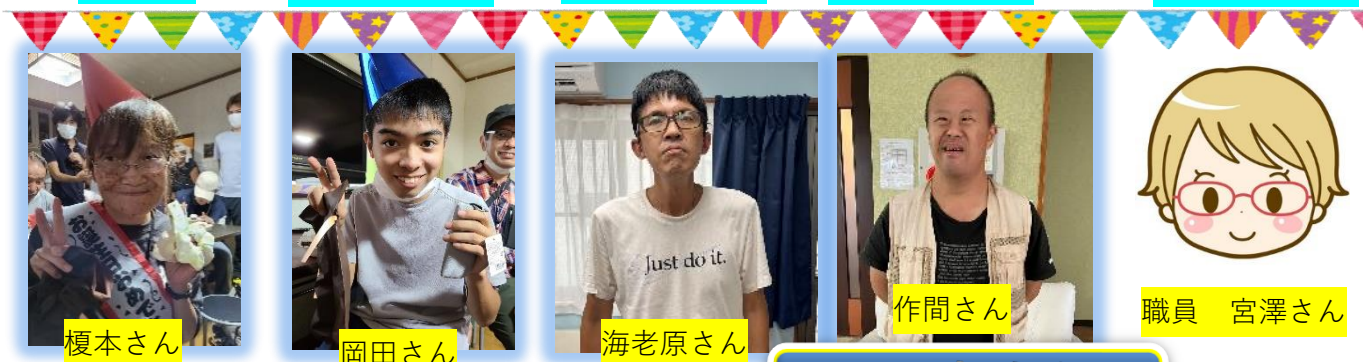


happy birthday



<編集後記>

新型コロナウイルスが5類感染症に移行して元の日常生活へ戻り、全国各地で様々なイベントが開催されていますね。おおばんでも再開したイベント販売に声をかけて頂き、利用者は「やっと販売出来るね！」「お客さんはたくさん来るかな？」「よし！頑張ってたくさん売るぞー！」と販売日の数日前からやる気満々。素晴らしいです。販売当日も「焼きそばいかがですかー！」「美味しいですよ～」と元気いっぱいの呼び込みで集客バッチリ！今後利用者や事業所の様子は勿論、地域との関わり・人との関わりを大切にしたい様々取り組みを通信で紹介していきたいと思ひます。

1994年8月24日 第三郵便物承認
2023年10月12日発行（毎月12回2・4・6・8の日）通巻第5400号 発行人 埼玉県障害者団体定期刊行物協会
川口市芝新町15-9アステール藤野1階 頒価 50円
郵便振替 001000-8141223

～そよ風のように街に出よう～

S S T L

つくばね通信



社会福祉法人つくばね会
代表 千葉県我孫子市都部新田37-2
TEL 04-7187-1944
FAX 04-7187-1947
HP <http://tukubanekai.sakura.ne.jp/>
編集・発行：けやき社会センター・はるか
おおばん・ふれんず

(おおばん広報委員 宮澤 由衣)

3年前、ある作家さんの展覧会に関わりました。彼は60歳まで統合失調症を人生の友に、生き、描き、死にました。展覧会実行委員会メンバーは彼を知っていらっしゃる方がほとんどでしたが、私にお会いしたことがなく彼を知りませんでした。絵を通じて人となりや想像しながら彼に近づいて行きました。

亡くなった後に、なんと800枚を超える絵が見つかりました。風景・人物・動物・？・ファンタジー・・・などカテゴリー別に整理をして、どの作品を見てもらおうかと委員で思案し、当日を迎えました。銀河に向かって進む列車の絵が多く残されており、お客様も興味を持ってくださり、食入るようになってくださる方がいらっしゃいました。

お求めになる方も多かったのですが、私はひそかに彼の描くヌードにインパクトを感じていました。実際の展示では、列車や風景画などが中心に選ばれました。思ったような反応や全く違う反応を目の当たりにしながら、生前彼を支えた方々と話をできた楽しい開催期間でした。草むらからこっちを何とも言えない表情で見ている妖怪や、なんだかわからないけれども不気味なもの・・・でも亡くなった後にこうしてたくさんの方に見てもらえて彼は喜んでいるかな、そしてリアルに彼に会っていたらどんな話ができただのかなあなどと。

最後になぜヌードがいいと思ったのかしら・・・ある支援者からあまり女性にはご縁がなかったと聞き、なんとなく合点がきました。憧れは現実を越えます。



サポートセンターけやき 山崎

～障がいのある人への選挙権について考えてみませんか～

先日、NHK ニュースの中で、東京都狛江市で初めて障がい者の投票率(今春、統一地方選挙で行われた市議会議員選挙)を調査したとの報道がありました。調査結果、障がいのある人の投票率は、46.9%(狛江市全体の投票率は50.7%⇒3.8ポイント低い)でした。障がい者別の投票率では、精神障がい者50.4%、身体障がい者47.5%、その中で、知的障がい者の投票率は37.7%(障がいのある人全体の投票率46.9%と比較すると10ポイント近く低い)という結果になり、さらに、障がいの状態が重くなればなるほど投票率が、低くなっているというものでした。このニュースに触れ、思い出したのは、私が初めて働いた都内入所施設での選挙の取り組みでした。東京都知事選、市議会議員選、衆(参)議院議員総選挙等があるたびに立候補者を呼び、演説会「選挙のお話を聞く会」を行っていました。投票直前には「模擬投票(注1)」を行い、選挙当日には、重度の知的障がい者とともに投票所へ行きました。投票所では、係員に依頼し「2回指差し方法(注2)」によって、投票するというスキームが出来ていて、障がいのある人もスムーズに投票されていたのを覚えています。私が入職していた25年ほど前よりずっと前(1970年代頃)から先輩職員達は、障がいのある人の選挙を通して社会参加することを進めていました。障害者福祉の制度が今ほど整っていない時代に、当たり前に行行政等と協力して進められていたことに、改めて感服いたしました。私は、その施設を退職して以降、関わることはなくなりましたが、今回、ニュースを見て再燃し、問題意識をもつようになりました。

2014年に、日本は障害者権利条約を批准しています。その中に、第29条「政治に参加すること」が記されています。原文(抜粋)には、【私たちに、政治に参加する権利があります。政治に参加する権利とは、選挙で投票したり、立候補したりすることや、政治について意見を言うことなどです】とあります。しかし、NHK ニュースの中では、課題もあると述べられています。ご家族から、投票に行かせたいと思っても、本人が行きたいかどうか、誰に投票するか意思をくみ取ることが難しいという声……。そのため、投票に行くことを諦めたり、「候補者を選べないだろう」「行っても投票所で騒ぐなどして、迷惑をかけてしまうかもしれない」などと、投票に行くことをためらってしまうということでした。狛江市では、調査結果をもとに、「投票に関する制度をわかりやすく伝えることによって、選挙へのハードルを低くして、投票しやすい環境を整えることが必要だ」としています。私たちが住んでいる我孫子市、近隣市はどうでしょうか。ニュースでは、障害者権利条約が批准されてなお、障がい者の権利が全国、市区町村によって取り組み方に開きがあるとも述べられていました。今回、このニュースを見て、障がいのある人々が、当たり前に行き投票の権利を行使できる社会へ、行政、ご家族、障害者福祉施設等が、協力し合い、投票しやすい環境が整備されるよう、その実現に向け、考え行動していきたいと思いました。

皆様はどう、思われますか。

(けやき社会センター 小嶋)

注1:模擬投票とは、施設内に、実際の投票所を仮設し、選挙の方法を学ぶこと。

注2:2回指差し方法とは、選挙公報(顔写真入り)に掲載された候補者を2回指差しで行う。

福祉を選んだきっかけ

私は、中学生の頃までやってみたいなと思う事や興味のある事は沢山あったのですが中々一つに絞ることが難しく将来の夢が決まっていませんでした。そんな時中学校の授業の一環として職業体験があり、そこで私は子どもが好きという理由で保育園を選択しました。職業体験で子どもと関わった際に無邪気に遊ぶ姿や素直な様子を見て改めて子どもと関わる事が好きだなと感じ、子どもに携われる仕事に就けたら毎日頑張れるなと思ったことがきっかけで保育士になりたいという夢が出来ました。高校卒業後は、保育士になる為に福祉の専門学校に進学しこども福祉学科を専攻致しました。初めは保育園で働くことを目標に日々の授業に取り組んでいましたが、実習を通し保育園だけではなく施設実習(成人施設)を経験し一人一人に寄り添う支援を身近に感じることで、とてもやりがいを感じました。就職活動が始まり、保育園と施設のどちらも魅力を感じている中でどちらかの道を選択する事が難しくとても悩んでいました。そんな時、学園祭を通してつくばね会の職員と利用者の方に接する機会があり職員と利用者の方の関りを見てとても素敵だなと感じました。その時に職員の方に話を伺う中で福祉に興味を持ち実際に見学に行くと、職員と利用者の方が和気あいあいとした雰囲気関わっている様子を見てとても暖かい場所だなと感じ、福祉の現場で働きたいと思いました。元々、子どもが好き！という気持ちはありましたが障がいを持った子供と接した経験が無く、新しい職員として受け入れてもらえるのだろうか初めの頃は不安もありました。しかし、働いていく中で多くの利用者に関り関係性を作り上げていき、今では子ども達の方から「松崎さん！」と駆け寄ってきて貰える姿にとっても嬉しく思います。今後も一人一人の個性を尊重し、ふれんずに来ることを楽しみにして頂けるような支援を目標に子ども達の成長のサポートが出来たらと思います。(ふれんず 松崎)



けやき社会センター～DAY班の新しい取り組みを紹介します～

DAY班の午後の活動は、歩行又は室内作業を中心に行っていましたが、室内に残る方々の運動量の低下が懸念されていました。そこで10月からより動きのある時間を取り入れていこうと職員が話し合い、新たに体操の時間を木曜日の午後に設けることになりました。体操の目的は体力の維持・ストレス発散・運動機能低下の防止などです。初めての体操の時間は次回から体操が辛い・嫌だなどという気持ちにならないように、楽しく簡単にできる運動がよいと考え、誰もが知っているラジオ体操を選びました。DAY班のみなさんが好きなキャラクターが出演する映像もあり、探す職員もワクワクです。ラジオ体操だけでは物足りなくて、他の映像を選んで、5曲ほどダンスを追加して踊ることもできました。

ダンスが好きな方はノリノリで知らない曲でも見よう見まねで全力で踊っていましたが、立って踊ることが難しい方は座ったまま足踏みしたり、手の動きを真似したりと無理の無い範囲で参加し、みなさん笑顔で楽しんでいる様子が見られました。初回はペースが分からず進めてしまったため、終わったときには職員も含め全員くたくたになってしまいました。今後は体操やダンスだけでなく、簡単にできるストレッチも取り入れて無理なくいい汗をかける時間を目指していけたらと思います。

(けやき社会センター 進藤)



「おおばん応援団」～ウルトラ運動会へ行く！～



今回のウルトラ運動会、おおばんは紅組の代表として応援合戦を任せられました。責任重大です。立候補で団長は物静かで責任感があるWさん、副団長はムードメーカーで気配り上手なKさんと朗らかで頼りになるTさんが務めてくれました。事前練習では3人が中心となって少しでも上手に応援ができるようにと、何度も音楽に合わせてダンスを踊り振付けを皆で覚えました。当日は3人が先頭に立ち意欲的にダンスと紅組に力強いエールを送り、皆も練習通り最高のパフォーマンスを見せてくれました。そんな皆の頑張りがあって「応援賞」を頂けた上、紅組の優勝にも貢献出来たのだと思います。さて、全員参加競技の〇×クイズ、アンパンマン・ウルトラマンからのマニアックな出題がありました。



アンパンマンはAさんが、ウルトラマンはTさんがとても詳しく、2人に答えを聞きながら移動すると正解！なんとおおばんの半数が最後まで残ることが出来ました。日頃、このような知識や特技を活かすことは少ないのですが、ヒーロー（博士と呼ばれていました）のように活躍する場面を見ることが出来て素直に嬉しさがこみ上げてきました。運動会では競技中、皆の前に立ち積極的に声を出して応援する団長と副団長の姿や、一緒にポンポンを振り応援する皆の姿が見られました。皆が純粋に一生懸命エールを送る姿にとっても感銘を受けました。久しぶりにウルトラ運動会に参加し、改めて日常を抜け出し皆が楽しい思い出を作れる機会の大切さを感じました。（おおばん 吉田）

グループホーム地球～調理支援～



地球では8人の方が、休日も利用しています。平日、日中活動に出ている人は通所先で給食があったりお弁当を買うなどしますが、土日祭日はグループホームでお昼を用意しなければなりません。地球では節約のため朝昼兼用で卵かけご飯の人、朝もらったお金で好きなものを買に行く人、世話人が買っておいたパンとコーヒーを受け取り、早々にお散歩に出かける人などさまざまです。

入居して間もないAさんは、ご家族から自宅では自分で卵を料理してごはんを温めて食べている、と聞きました。入居当初はコンビニ弁当を買って、「これを明日食べてね」とAさんの冷蔵庫に入れたのですが、自宅と勝手が違うためか弁当には手をつけず残してしまいました。これは大失敗だ！と世話人が始めたのは、自宅と同じように卵料理を作って食べること。12時に声をかけ、卵とフライパンと油を揃えます。お椀に卵を割り菜箸で混ぜます。IHのコンロのスイッチは主電源、点火、火力の3つ。一緒に確認しながらスイッチを押していきます。あとはAさんがフライパンに流した卵をささっと混ぜて完成。ごはんはパックのはじを開けてから電子レンジで「温め」を1回押して待ちます。お皿にごはんを盛りつけ、ふわふわ卵に好きなマヨネーズをかけてにっこりのAさんでした。そのあとは食器洗いを声かけ、最後まで見届けて世話人もほっとしました。

食材の場所、コンロや電子レンジの使い方がわかればスムーズにできることを知って、世話人が何度か休日に立ち合い調理を見守りましたが、これからもAさんができることをごく自然に行えるようにグループホームの生活を彩りたいと思います。（グループホーム地球 広瀬 美紀）

「来年度、報酬体系の改定の年になります」

報酬体系の改定は、診療報酬は2年に1度、介護と障害福祉サービスが3年に1度の報酬改定になるので令和6（2024）年度の報酬改定は6年に1度のトリプル改定の年になります。トリプル改定の年は大きな見直しとなることが見込まれるので大変注目されています。そんな中、厚労省から出ている令和6年度障害福祉サービス等報酬改定に向けた検討の進め方（案）のスケジュールが（下記）です。

- 9～12月 各サービスの報酬等のあり方について検討
- 11～12月 サービスの横断的な報酬等のあり方について検討
- 12月 報酬・基準に関する基本的な考え方の整理・取りまとめ
- 12～2月 政府予算編成
- 2～3月 障害福祉サービス等報酬改定案の取りまとめ
- 3月 関係告示の改定・通知等の発出
- 4月 改定後の障害福祉サービス等報酬の適用



今まさに報酬改定の議論されている最中です。だいたい12月くらいに基本的な考え方が決まって、大体の方針が見えてくる予定になっています。国の財源が厳しいからマイナス改定になるとか、事業所を存続させるためにもプラスもしくは、せめて原状維持の改定にしてほしいなど、調べると色々な声が聞こえてきます。果たしてどういった改定になるのでしょうか。理事長としては、このコロナ禍、加えて物価高騰の中、日々頑張ってくれている職員の生活の安定のためにも、法人の運営を安定継続させるためにも、加算や単価が上がる改定になることを節に希望しています。報酬体系や報酬単価という言葉は聞いたことがあるとは思いますが、社会福祉法人を運営する財源の収入はこの改定で決まった報酬単価で増減します。実情にあった報酬体系にするためサービスによって報酬単価が異なるので事業によって増減することになります。本当に実情にあっているのかと思うのですが。

障害福祉サービスの報酬単価とは？

障害福祉サービスの報酬単価はサービスによって違います。また利用者の障害支援区分によって違ってくる場合もあります。

障害福祉サービスの報酬は？

サービスによって異なりますが、基本的には各利用者がサービスを利用した日数を日割りで請求します。その他に加算が付きます。それを各事業所が提供したサービスの対価（給付費）として国民健康保険団体連合会（国保連）を介して市町村から受け取ります。

（理事長 志賀）

ふれんず～子ども達の様子～



長期休みが始まり、ご自宅にお迎えに行く子どもたちからは「今日はどこの公園に行くの？」や「今日は〇〇して遊ぶ」など朝から楽しみにしている姿があり、車内は賑やかな会話で盛り上がりました。午前中は電車や風景を楽しむため駅や川にいる鳥などを見に行き、午後は普段行けない茨城方面の広い公園に行き、水遊びや遊具を楽しみました。毎年夏休み恒例の水遊びでは水鉄砲でお友達同士と当て合いっこをして、どちらが多く濡れるか対決したり、滝がある場所では水を思い切り浴びて遊ぶなど、職員も子どもたちと一緒にびしょ濡れになりながら楽しみを共有出来ました。室内では難易度の高い塗り絵やアイロンビーズに挑戦すると、集中して取り組む姿があり、遊びを通して自身の得意なことを伸ばすことができました。また、思い切り楽しんだ後のかき氷！5種類のシロップの中から好きなシロップを選び美味しく食べていました。夏休みが終わりに差し掛かると「まだ夏休みがいい！」と夏休みがまだまだ続いている子や「久しぶりに学校のお友達と会える！」と学校開始を楽しみにしている子など様々でした。その中でも高校三年生は学生生活最後の夏休み。「夏休みが終わってしまう」と悲しんでいる方も多くみられましたが、公園活動ではその悲しみを吹き飛ばす勢いでお友達と全力で遊びを楽しまれました。学校が始まりしばらくは夏休み気分が抜けきれていない子も多かったのですが、現在は学校での楽しかった出来事を嬉しそうに話してくれ、学校生活を楽しんでいる様子が見られます。今後とも定期的に企画を考え、ふれんずを子どもたちにとって息抜きや楽しく過ごせるような場所にしていきたいと思えます。

（ふれんず 白井）



「はるかB型」～感動のウルトラ運動会！！

8月31日(木)に千葉ポートアリーナにて、ウルトラ運動会がありましたので参加してきました。ウルトラ運動会は施設等の職員がボランティアで運営している歴史ある千葉県内の20施設、約400名が集まる大運動会です。今年度は、コロナも5類に落ち着き、一日通しての開催となりました。普段、外作業で汗を流しながら頑張っている利用者も、この日は競技や応援に大はしゃぎ。日常では見ることのできない、仲間とのふれあい楽しそうにする姿や、心ひとつにしての応援等に、感動しました。その時間を一緒に過ごせて良かったです。また来年も！

（はるか 宮澤）



サポートセンターけやき～地域移行支援について～

サポートセンターけやきでは、計画相談支援事業、委託相談支援、認定調査、自立生活援助と事業を展開し、毎日忙しく相談業務などに向き合っています。その事業のほかに地域移行支援、地域定着支援という一般相談支援事業も指定を取っており、今回は地域移行支援について少しお話をしたいと思っています。

地域移行支援とは、障害者支援施設等に入所している障害者又は精神科病院に入院している精神障害者、その他の地域における生活に移行するための活動に関する相談、その他の必要な支援を行います。施設や病院から地域に移行するためにグループホームなどの生活の場と一緒に探して、見学同行や体験の調整をしたり、日中活動の場の見学、体験の調整、居宅介護などのサービス調整、退院後の医療との連携などを相談支援専門員が中心となり支援を行います。病院に何度も行き来し、本人や家族、関係者との面談、会議の開催などを行いながら地域移行支援を進めていきます。相談員の役割は多く、他の業務を行いながらと大変ではありますが、地域で安心して生活したい、生き生きと暮らしたい、という利用者の方の想いに寄り添い支援を行います。

サポートセンターけやきでは今年度2件の地域移行支援を実施しており、少しずつ実績を上げていきたいと考えています。長期施設入所者や入院の方が、地域で安心してその人らしく生活できるよう少しでもお手伝いができればいいと思いますし、何より支援を行う事で多くの支援機関や医療機関とつながりが持てることはサポートセンターけやきの財産にもなります。

今後も微力ながら頑張っていきたいと思っています。（サポートセンターけやき 樋口恵理子）



グループホーム空～ミニ運動会の様子～

家から出て皆でできるイベントを考えました。健康的に体を動かそうと、ミニ運動会を企画しました。空を開所した時にはよく市民体育館で運動したものです・・・

だいぶ顔ぶれも変わり、利用者の人数も増えたのでどうなるか心配でしたが、想像以上に皆さん楽しんでいました。ラジオ体操で体をほぐしたら、いざ本番！バランスボール送りや、皆が大好きなパン食い競争。パンを取る前に体を回してから走り出す・・・でしたが、いざ取ろうと上を向くと目がまわって苦戦していました。他にも射的や鬼ごっこ玉入れ等約10種目、中でも鬼ごっこ玉入れが皆さん一番の笑顔で楽しんでいました。仕事などの都合により参加できない方も多かったのですが、家の中でないからこそ盛り上がったのではないかと感じました。運動した後はバーミヤンで昼食をお腹いっぱい食べました。

（グループホーム空 管理者 竹内）

